

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 125人

② 数学 125人

③ 理科 121人

5 留意事項

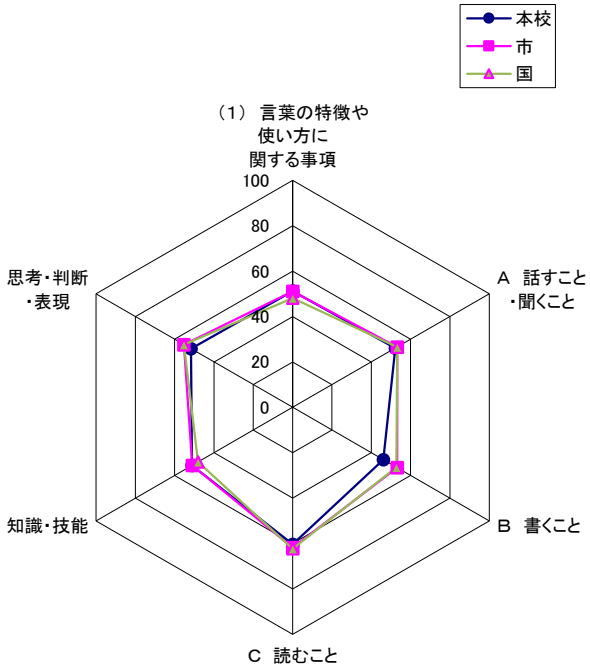
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	51.2	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	52.2	53.2	53.2
	B 書くこと	46.1	53.1	52.8
	C 読むこと	60.3	61.8	62.3
観点	知識・技能	51.2	51.1	48.1
	思考・判断・表現	51.7	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

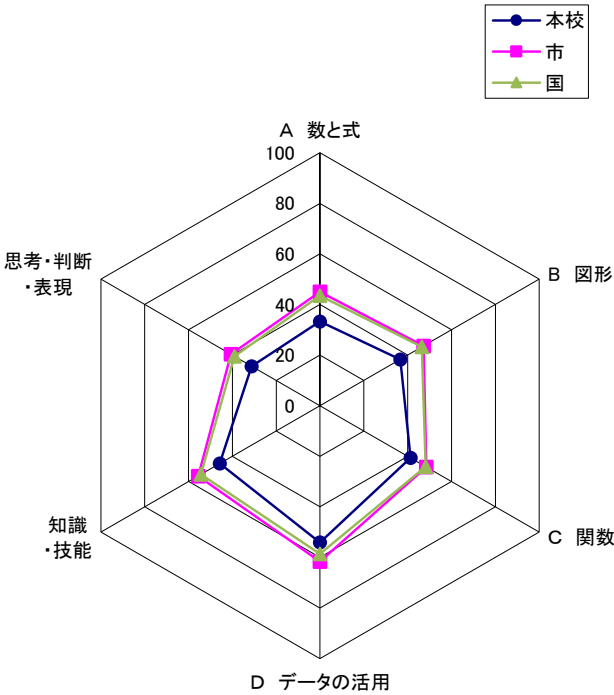
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使い方に 関する事項	正答率は、市平均を0.1ポイント、国平均を3.1ポイント上回った。 ○漢字を正しく使えるか、言葉の意味を理解しているかという問題どちらも国平均を上回り、無解答率は0であった。	○漢字については、既習漢字についても折に触れて話題にし、正確に書けるように授業で取り上げていく。 ●言葉の意味については漢字の書きのみにならないように文章を作る機会を増やしたり、AIDリルを活用したりしながら知識の定着を図っていく。
(2) 情報の扱い方に 関する事項		
(3) 我が国の言語文化に 関する事項		
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均と国平均を1.0ポイント下回った。 ○資料や機器を用いて、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題で、市平均・全国平均を上回った。 ●相手の反応を踏まえながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題では市平均・国平均を下回った。	●資料を読み取り、そこから自分の考えをまとめることに不慣れた生徒がいるため、作文指導などでこのような課題の演習量を増やしていき、向上を図る。 ●話の内容を聞き取ることや、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことについては、授業における話し合いや発表の場面を意図的に増やし、繰り返し取り組むことで向上を図る。
B 書くこと	正答率は、市平均を7.0ポイント、国平均を6.7ポイント下回った。 ○集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかという問題では、無解答者がいなかった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかという問題で市平均・国平均を下回った。	●自分の考えを根拠を明確にして書く学習が続けていたが、まだまだ十分ではなかった。授業においても自分の考えをまとめる機会を増やしたり、作文指導を充実させたりなど、様々な問題に取り組む機会を増やしていき自分の考えをまとめることができるようにしていく。
C 読むこと	正答率は、市平均を1.5ポイント、国平均を2.0ポイント下回った。 ○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかという問題では、無回答者がいなかった。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかという問題で市平均・国平均を下回った。	●表現の効果については回答率から意欲的な傾向が見られるので、正答率向上のためにも授業内で文頭の言葉などに注目させ、その語の効果を考えさせる機会を増やしていく。 ●段落相互のつながりを整理し、筆者の述べたいことを読み取り、条件に応じた表現で自分の考えを文章にまとめることができるよう指導していく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	33.3	45.0	43.5
	B 図形	36.6	47.2	46.5
	C 関数	41.3	48.5	48.2
	D データの活用	54.1	61.6	58.6
観点	知識・技能	45.8	55.6	54.4
	思考・判断・表現	31.2	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は市平均を11.7ポイント全国平均を10.2ポイント下回った。 ●素数の意味の問題の正答率は他の問題の正答率に比べ低く課題が見られた。 ●数や式の問題の平均正答率が市平均・国平均を下回った。	・授業中に公式を暗記させるだけでなく「なぜそのような公式になるのか。」を考えさせる場面や間違えた解答例を示してどの部分でつまづいているかを考えさせる場面を設定することで、計算の手順を理解できるようにする。 ・基礎的な問題を繰り返し解くことで、計算の手順に慣れることができるよう、今後も問題集やAIDリル等に取り組ませる。
B 図形	正答率は、市平均を10.6ポイント、全国平均を9.9ポイント下回った。 ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題の無回答率が、高かった。 ●証明問題の正答率は、市平均・国平均を下回った。	・授業中、何をもとに何が説明されたのかを整理する活動を重視し、説明のしくみや証明の意味を理解できるようにする。 ・基礎的な図形の性質を確認することができるよう、基礎・基本の問題を繰り返し取り組ませる。 ・図形の証明に関する記述については、個に応じて穴埋め形式を取り入れるなど支援の仕方を工夫し、意欲的に学べるようにする。
C 関数	正答率は、市平均を7.2ポイント、全国平均を6.9ポイント下回った。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の無回答率は、他の問題の正答率に比べ高く、課題が見られた。 ●関数の問題の正答率は、市平均・国平均を下回った。	・身近な生活の事象の中にある関数関係を見いだし、図や式、表、グラフなどで表現する活動を取り入れながら、事象の特徴を的確に捉えることができるようにする。 ・比例・反比例、1次関数などについて、それぞれの関数の式や表、グラフで整理し、それぞれの関数の特徴を理解させたり、問題場面を図や表に整理して関数関係に気付かせたりする活動に取り組ませ、基礎・基本の定着を目指す。
D データの活用	正答率は、市平均を7.5ポイント、全国平均を4.5ポイント下回った。 ○相対度数を求める問題の正答率は、国平均を上回った。 ●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は、市平均や国平均より大きく下回った。	・データの分析における基本的な用語とその意味が理解できるよう、基本的な問題を繰り返し取り組ませる。 ・不確定な事象を考察できるよう、図や表で整理させ根拠を説明させる活動を授業中に取り入れる。 ・数学的な用語を用いて自分の考えを表現する活動を意欲的に取り組めるよう、個に応じた支援を工夫する。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	51.7	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	55.2	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	41.9	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	36.0	36.7	37.3
観点	知識・技能	61.6	67.0	66.8
	思考・判断・表現	35.4	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

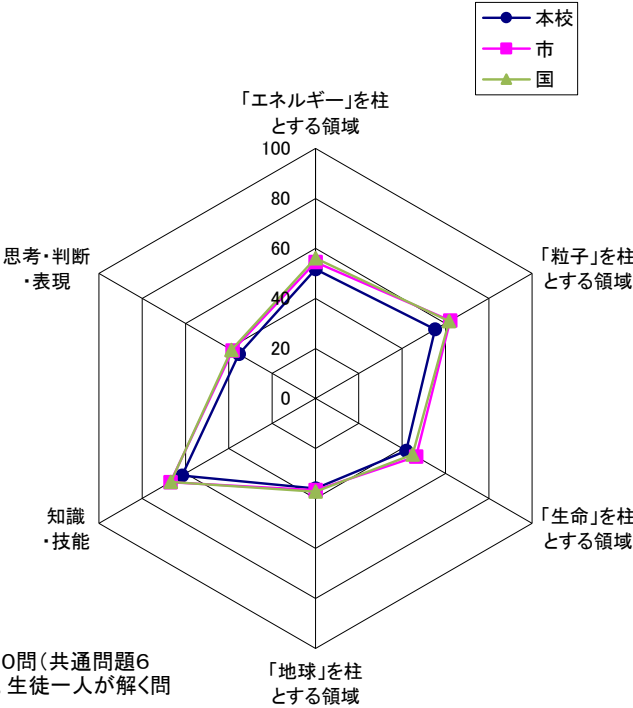
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は、市平均を2.8ポイント、全国平均を4.4ポイント下回った。 ○考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題では、市平均・県平均ともに上回った。 ●抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する問題では、市平均・国平均ともに下回った。	・エネルギーの分野は実験が多い単元であり、実験の目的を明確にし、結果から法則性を考察できるように工夫して指導する。 ・量的な考え方や公式から数量計算する方法を身につけさせるために繰り返し指導する。 ・図から読み取ることも必要になってくるため、練習問題などを繰り返し解く時間を多く取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	正答率は、市平均を7.0ポイント、全国平均を6.5ポイント下回った。 ○「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する問題では、市平均・県平均とほぼ同等であった。 ●塩素の元素記号を記述する問題、水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探求の過程におけるあなたの振り返りを記述する問題では、市平均・国平均を下回った。	・粒子の分野においては、生活にかかわる事象を扱うことが多く、実験が多い単元であるので、実験結果について実生活と関連させながら、科学的な見方をはたらかせて考察できるよう工夫して指導する。 ・グラフ化やモデル化の内容は、学年が進むにつれて難しくなるため、その都度基礎・基本の確認を行うとともに、理解の定着につなげる授業展開を工夫していく。 ・グラフからの読み取りなど数学科と指導方法について共通理解して指導していく。
「生命」を柱とする領域	正答率は、市平均を4.6ポイント、全国平均を2.9ポイント下回った。 ○牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの茎の断面図、根として適切なものを判断し、選択する問題では、市平均・国平均を上回った。 ●生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題では、市平均・国平均を下回った。	・生命分野の学習は、生徒も比較的取り組みやすく、好きな単元であるが、生物の理解が乏しく、名前を知っている程度になっている。授業で一步踏み込んだ点に触れたり、一人一台端末を活用したりするなど、生徒の興味・関心を高める時間を確保する。 ・動物の単元は生き物に触れ合う機会が少なく、経験が乏しい単元であるので、動画を視聴するなどして、基本的な知識の定着をさせる工夫をする。
「地球」を柱とする領域	正答率は、市平均を0.7ポイント、全国平均を1.3ポイント下回った。○地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する問題では、市平均を・国平均を上回った。 ●大地の変化に関する言い伝えを一つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する問題では、市平均・国平均を下回った。	・地球分野の学習は、用語の正しい理解が定着していないことが多いため、分かりやすく整理した説明や板書を心掛ける。また、自主学習を通して、自分でまとめたり、確認をしたりできるように指導していく。 ・地学的事象については、科学的な根拠をもとに考えることを習慣づけさせる。また、地震や気象による災害など、自然災害に関する情報に関心をもたせ、地球分野で扱う学習内容を身近な問題としてとらえさせる。



宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した本校生徒の割合は80.6%で、県平均よりも5.3%、全国平均よりも7.4%上回っており、日常の教師との様々な場面での人間関係が良好であることがうかがえる。今後も、教育相談機能を充実させ、「認め、励まし、寄り添える」関係づくりに取り組んでいきたい。	
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した本校生徒の割合は95.2%であった。「あてはまる」(本校83.1%)と回答した生徒の割合と比較すると、県平均より1.3%、全国平均よりも6.0%上回っている。校内では生徒会の「いじめ撲滅運動」をはじめ、学年、学級他の場面でも「いじめは許されない」と日頃から意識して取り組んでおり、生徒会を中心とした「話し合い」を生かした活動の成果が表れている。	
○「国語の勉強は好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した本校生徒の割合は66.1%で、県平均よりも7.0%、全国平均よりも8.2%上回っており、国語の学習に対して生徒は意欲的に捉え取り組んでいる。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した本校生徒の割合は94.4%で、県平均よりも2.2%、全国平均よりも6.6%上回っており、国語の大切さを多くの生徒が理解している。今後も読書や作文、その他様々な学習を通して学力を高めていきたい。	
●「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の質問に「当てはまる」と回答した本校生徒の割合は24.2%で、県平均より17.4%、全国平均より10.9%下回っている。今後は、さらに授業での話し合い活動を充実させるとともに、タブレットを活用した協同的な学びを進めていくことに重点を置き、自分と他者の意見を比較したり、他の意見を自分に取り入れれたりする学習に取り組んでいきたい。	

宇都宮市立宝木中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること	
重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』の推進	①生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫
	②「振り返り」活動の徹底
(2)家庭学習のより一層の充実	・自主学習ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛 ・家庭学習の充実

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと	
調査結果等に見られた課題	取組の具体的な内容
授業の導入段階で生徒が自ら学びたいと思ひ、見通してをもって課題に取り組める「授業のめあて」の設定が課題であると考ええる。	宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」の、課題を「はっきり」とらえるための発問や資料の工夫